

## 論文審査の結果の要旨

氏名：齋藤 かおり

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：健常成人における血清脳由来神経栄養因子(brain-derived neurotrophic factor:BDNF)と生活習慣及び心理社会的要因との関連についての多角的検討

審査委員：(主査) 教授 高橋 昌里

(副査) 教授 大井田 隆 教授 越永 従道

教授 根東 義明

BDNF(brain-derived neurotrophic factor)は脳内に広く存在する神経成長因子の一つであり、神経の維持や可塑性に影響し神経新生に重要な役割を担うことが解っている。近年うつ病、双極性障害、統合失調症などの精神疾患において BDNF が低下し、さらに精神疾患に罹患していない人においてもストレス状態、睡眠、運動など様々な要因に関連して変動する可能性が示唆されている。

本テーシスは、比較的均一な社会的背景、年齢を有する健常者 79 名(男性 45 名、女性 34 名、平均年齢  $23.8 \pm 1.9$  歳)を対象に血清 BDNF 値と新奇性追求(NS)のパーソナリティ、生活習慣、睡眠、ストレスなどとの関連を調べるとともに対象者の BDNF の遺伝子多型(Val66Met)についても解析しまとめたものである。

その結果、健常者の血清 BDNF は  $26056 \pm 5813$ pg/ml であり、BDNF 遺伝子多型 Val66Met は血清 BDNF の濃度に影響を与えないことが明らかとなった。また検討した各要因の中で、男性においては BDNF と NS が負の相関を示し、女性においては BDNF と週末の睡眠時間が負の相関を示した。これらの結果から男性においてはパーソナリティの要因が、女性においては週末の睡眠習慣の要因が血清 BDNF 濃度に関連することがわかった。

これまで BDNF の研究はもっぱら精神疾患に関するものであり、健常者のみを対象とするこのような研究は少ない。今回の研究から健常者においてもパーソナリティや睡眠といったストレスと密接に関連する要因と BDNF 濃度との関連が明らかとなり、ストレス社会における BDNF 研究の重要性が示された。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認める。

以 上

平成 29 年 2 月 22 日